

# パラ五輪ボート2人 戸田市長訪問

## 「感激を送りたい」

東京パラリンピックボート競技で「PR3男女混合舵手(たしゆ)付きフォア」に出場することが決まったチーム5人のうち、舵手「コックス」の立田寛之さん(29)と「ぎぎ」の八尾陽夏(はるか)さん(24)ら2選手が、戸田市役所を訪れ、菅原文仁市長に決意を語った。

2人はともに市内に本拠を置く戸田中央総合病院ロイヤリングクラブ(戸田中RC)に所属。前回東京五輪のレガシす」と話した。

1、戸田漕艇場でボートに打ち込んでいる。

「市民の代表として頑張つて」という市長のエールに、立田さんは「光榮です。五輪代表になったことを誇りに思い頑張ります」。八尾さんは「戸田に帰ると元気になる。私たちからも元氣や感激を皆さまに送りたい。やるべき」とは全てやり切った。新しい挑戦へ、気持ちほできていま



菅原文仁市長(左)にパラ五輪ボート代表決定を報告した八尾陽夏さん(中央)と立田寛之さん(右)戸田市役所

### ◆一本が2千円

八尾さんは和歌山県出身で現在はふじみ野市在住の会社員(三井物産ビジネスパートナーズ)。小学生のころに病気で倒れ上下肢に障害を負ったが、スポーツに励んできた。大東文化大で陸上部2年の時にボートへ転向。卒業後の2018年から戸田中RCに所属している。

「ボートの2千円は大変でしょうね」と菅原市長。八尾さんは「そうなんです」と身を乗り出して語った。

「陸上競技は100円や200円とか、勝負は一本に気持ちを集中する。ところがボートは2000円。ゴールまで何本もこいでこれが一本。この違いを体で分かるまでなかなか大変だった」と語った。本番ではほかの「ぎぎ」選手、身体や視力に障害をもつ3人と力を合わせていく。

### ◆オール4人と舵手1人

この種目では舵手は健常者も可。立田さんは健常者として参加、4人の「ぎぎ」にスピードやタイミングを号令しかじを切る。

### 「八尾さんの明るさにみんなが支えられ、私も元氣をも

らっている。彼女は片手でこぐ。それがどんなものか、自分でやってみてその難しさが分かった」と立田さん。

立田さんは北海道出身。日大ボート部出身で、日大エイトで舵手を務め、14年の全日本大学選手権、17年の全日本選手権で優勝した健常者のボート界の星だ。

「大手広告代理店をやめてボート二筋に打ち込んでいる。うちに就職を勧めてもがんとして聞かない。そういう男です」と、戸田中RC部長で、同病院で事務局トップの総局長を務める牛之浜吉継さん(58)が説明した。立田さんは「無職です」と胸を張った。(岸鉄夫)